

山

やま

『出雲國風土記』には、全部で五十七峰の山の記述があります。数ある山の中から、いよいよ標準で「むら」の山が選ばれたのかをほつきりり知ることができそうですが、当時の人びとにとって、特別な意味を持つ山であったことは間違いないでしょう。記述の内容からその意味には、次のようなことがあったのではないかと推測できます。

1. 信仰の対象になっていた山(神名火(通)をはじめ、神にかかわる記載のある山が多い。概して山の姿が美しい)
2. 建材や鉱石、薬草など特定の産物が採れる山(杉、檜が記載されている山が多いのは、宮や役所の建築に適した木だったからではないかとも考えられる。植物以外には水晶などの記載もある)
3. よく目立ち、交通や軍事上重要な山(烽火代表、もちもん頂上からの見はらしは抜群)
4. 伝説やいわれのある山

山はすべて神々しく、いま以上に意味深い山々であったに違いありません。当時の人びとになったつもりで山を眺めると、それぞれの山の持つ意味がわかってくるような気がするのには不思議です。植生やまわりの風景は変わっていても、山の姿は基本的に風土記の時代と変わっていないものも少なくありません。この章では、『出雲國風土記』に記された山の現代の姿を、書き下し文とともに紹介していきます。

高野山 郡家の正東一十九里なり。
安来市と東出雲町の境の京羅木山(四七三m)と、八雲村と東出雲町の境の星上山(四五三m)の両説がある。両山はほぼ同じ高さで、星上山は、国庁があった松江市大草町の西側あたりからよく見え、安来方面からは京羅木山が目立つ。星上山は現在、頂上が整備されて車で登ることができる。京羅木山は戦国時代に月山攻めで毛利氏が築いた城があったが今は登山道が整備されている。

久多美山 郡家の西南二十三里なり。社あり。
松江市から大東町方向に向かう道を南に行き、千本ダムを越えてしばらくすると、左(東)にそびえる黒目山(二四二m)が久多見山と考えられる。大谷ダムの北西になる。社とは久多見社のこと。もとはこの山の上にあつたようだが、今は忌部神社に合わせて祀られている。山頂には中世の山城久多見山城跡がある。



夕暮れの京羅木山
(安来市佐久保町より撮影)



中海越しに見る星上山(右)と京羅木山(左)
(松江市大海崎町より撮影)



玉造温泉南方の山(一六〇m)から花仙山(一九九m)にかけてを指す。玉の原料のメノウや碧玉(青メノウ)



黒目山 (松江市東忌部町より撮影)



松江市松山から見た山並 (鉄塔の左が太平山、中央が澄水山。三坂山はその右だが、電波塔のある頂上は見えない)

ウ)が出る山で、古代から掘り出して盛んに玉が作られたことから出た名だろ。これらの山の周辺には、非常に多くの玉作遺跡が分布する。社とは玉作湯神社で、今もふもとにある。

嶋根郡
毛志山。郡家の正北一里なり。
大倉山。郡家の東北九里一百八十歩なり。
糸江山。郡家の東北二十六里三十歩なり。
小倉山。郡家の西北二十四里一百六十歩なり。
松江市の北に連なる北山の山並。東から大倉山が枕木山(四五六m)、糸江山が三坂山(五三三m)、毛志山が澄水山(五〇七m)、小倉山が大平山(五〇二m)と考えられる。枕木山にはテレビ中継所と華蔵寺があり、車で頂上まで登れる。澄水山も、平安時代には寺があったようだ。三坂山頂上には電波中継所がある。四季折々に松江市の背景を彩る美しい山並だ。



王院山 (出雲市寺領より撮影)

神門郡
田俣山。郡家の正南一十九里なり。檜・杉あり。
出雲市乙立町と佐田町朝原の境にある王院山(五五三m)にあてられている。出雲市では最も高い山で、寺領側から登山道も整備されている。



枕木山 (松江市福原町より撮影)



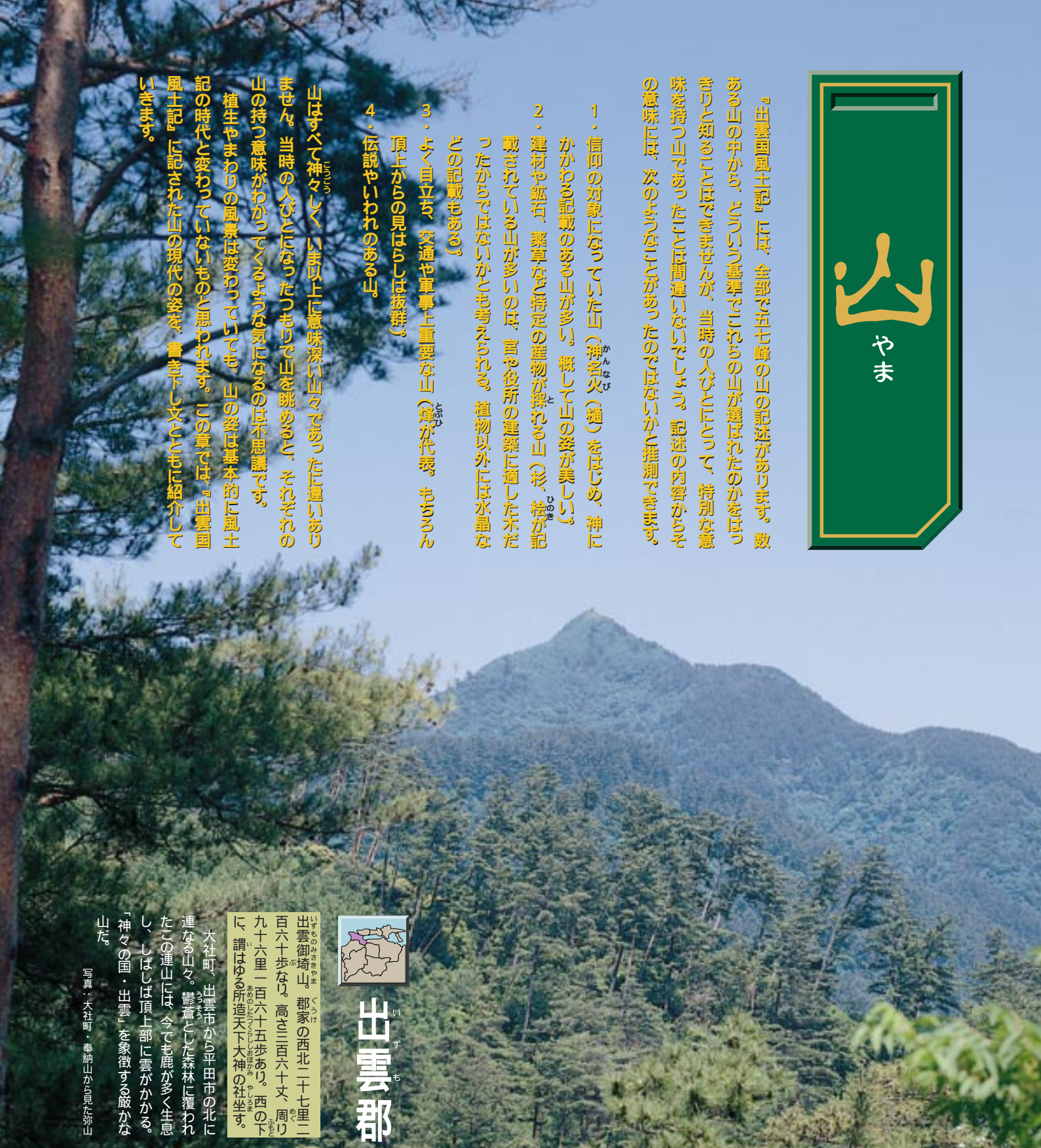
吉栗山 (佐田町川南上より撮影)

佐田町栗原と一窪田の間の吉栗山(三四〇m)と考えられる。ここで産出される檜、杉が大社の宮材に使われていたと記されている。今でもふもとを中心に杉、檜が生えている。中世には佐々木氏により城が築かれていた。

意宇郡
長柄山。郡家の東南一十九里なり。檜・杉あり。
出雲市見々久町の弓掛山(二九一m)と考えられる。山の形がゆるやかな弓形で中央部がややくぼんでおり、弓を横にした形に似ていることからこの名がついたのだらうか。



弓掛山 (出雲市見々久町より撮影)



出雲郡
出雲御崎山。郡家の西北二十七里二百六十歩なり。高さ三百六十丈、周り九十六里一百六十五歩あり。西の下に、謂はゆる所造天下大神の社坐す。
大社町、出雲市から平田市の北に連なる山々。鬱蒼とした森林に覆われたこの連山には、今でも鹿が多く生息し、しばしば頂上部に雲がかかる。「神々の国・出雲」を象徴する峻かな山だ。
写真：大社町・春嶽山から見た弥山

熊野山。郡家の正南一十八里なり。檜・杉あり。謂はゆる熊野大神の社坐す。
八雲村、大東町境の天狗山(六一〇m)で、熊野大社はもとはこの山にあったようだ。近辺ではもっとも高い山で、松江方面からもよく見える。山の形がゆるやかな弓形で現代の檜と同じ。檜とは、弓を作る材料だったよう。秋には紅葉する。



天狗山 (八雲村空山より撮影)



鷹入の滝

伯太町上小竹の畠境の鷹入山(七〇六m)東方にある永江山(五七〇m)。近辺には島根名水百選の一つ・鷹入の滝があり、にぎわっている水晶が産出すると記されている。

意宇郡
長江山。郡家の東南五十里なり。水精あり。